

「上城小学校のイシシハカマ伝承活動の取組」

1 学校名

知名町立上城小学校

2 学年・人数

全校児童（計 18 人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

4 月～9 月（上城小学校運動場・音楽室・ホール）

(2) 発表の日時・場所

上城小学校大運動会（10月）

知名町島唄・島ムニ大会（2月）

敬老会等各種イベント

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能，伝統行事について

(1) 名称

西目イシシハカマ踊り（にしみいししはかまおどり）

(2) 由来

江戸時代の終わりごろ，上城の沖野松盛が代官付人として鹿児島に行ったとき，歌を習い，島にもち帰り，西目地区（上城・下城・新城の3集落）の人々とともに，踊りや三味線を加え創り上げたといわれる。当初は，高野家を中心に伝承されていたが，現在は西目地区で保存会を結成し，後継者育成を図っている。平成4年に知名町無形民俗文化財に指定され，平成12年から大運動会で児童・教職員・校区民で踊っている。

(3) 構成等

江戸時代に流行した地突歌や祝儀歌の影響を受けている。

歌詞の内容は次のようになっている。姑が嫁に「石の袴を縫ってこい。」と無理難題をもちかける。すると嫁は，「石の袴を縫いますから，浜の真砂の糸をください。」と返す。最後は，「お互いの大事な振り袖を合わせて，見事な袴を作りましょう。」と，仲よくなるというものである。

踊り手の人数は決まっておらず，三味線・太鼓の演奏に合わせて，笠・紋付き・袴・襷・脚絆・脇差しという姿で軽快に踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年，上城小学校・上城校区合同運動会では，全児童・職員・保護者・校区民が参加して，イシシハカマ踊りを披露するのが伝統となっている。また，島唄・島ムニ大会，地域の敬老会等での披露も恒例となっており，地域全体で保存伝承に取り組む体制づくりができています。運動会の前には児童・保護者・教職員が一緒になって練習をする。

今年度は町の島唄・島ムニ大会でも，三味線を中学年と高学年，歌と踊りを低学年が担当して，イシシハカマ踊りを発表した。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

総合的な学習の時間に、中・高学年ともに「受けつごう！えらぶの文化」を設定し、三味線・島唄・郷土芸能等について学んでいる。本校の卒業生である地域住民に講師として来校していただき、三味線や島唄の指導を受けている。

本年度は、三味線で「イシシハカマ」を練習し、歌や踊りとともに発表できるようにした。

また、正しい踊りの伝承のために、夏休みの職員研修では地域の方に踊っていただいた映像を見て練習を行った。特に本年度は、転入職員が多かったため、時間を長くにとって練習に励んだ。

7 取組の様子



【令和4年度 上城小学校・上城小校区合同運動会の様子】



【第24回島唄・島ムニ大会の様子】

8 参加児童・保護者・保存会・教員等の感想・意見

- 島唄・島ムニ大会で、イシシハカマをカッコよく踊れたのでうれしかったです。あとから家族のみんなや先生方が「上手だったよ」と言ってくれました。来年は三味線を教えてもらって上手に弾きたいです。(児童)
- 今年赴任してきて、三味線や踊りの指導に不安がありましたが、毎年の積み重ねにより、子どもたちがよく覚えているので、一緒に学ぶつもりで取り組みました。地域の方々も教えてくださったので、安心して取り組むことができました。地域でとても愛されている踊りなので、今後も大事に受け継いでもらいたいです。(教職員)
- 上城小の子どもたちは、イシシハカマの踊りと歌・三味線の演奏を全て自分たちでやることができます。地域の方や先生方、保護者で教えています。イシシハカマ踊りには、道具や衣装も使います。これからは、袴の着付けも教えて、楽しく伝承していけたらいいと思います。(保護者)